

## 歴史は未来の羅針盤



近江日野商人館（大窪）、近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」（西大路）の開館時間は、午前9時から午後4時まで、休館日は毎週月・火曜日、祝日の翌日、年末年始になります。入館料は、大人個人三〇〇円、大人団体（三十名から）二五〇円、小・中学生一二〇円です。ぜひご来館ください。

江戸時代の大名の墓は、近年調査研究が進み、大名の資料としてだけでなく、墓制の資料としての価値が明らかとなってきました。こうしたことが評価され、国や県の文化財として指定され、歴史資料や観光資源として活用されている例が増えています。

滋賀県内には、京極家墓所（米原市）や井伊家墓所（彦根市・東近江市）、分部家墓所（高島市）、本多家墓所（大津市）などが残りますが、日野町にも数少ない近江の大名墓の一例が西大路に見られます。

由緒によると、清源寺（西大路）は、蒲生定秀が別邸として築いた「桂林亭」に始まりです。定秀の没後、息子の賢秀は桂林亭を「桂林庵」と改め、亡父を弔う寺院としました。元和六（一六二〇）年に入封した市橋家は、桂林庵を菩提寺とし

て修理を行い、宝永元（一七〇四）年に名を「清源寺」と改めました。

### 仁正寺藩市橋家

市橋家は、美濃国（岐阜県）出身の大名で、元和六年、市橋長政が仁正寺村ほか二万石（のち一万七千石）で立藩し、幕末まで一〇代にわたりこの地を治めました。



▲清源寺本堂の南に残る三代、六代、八代の藩主墓所

### 市橋家墓所

一般的に大名の墓所は、江戸や国許（領国）の菩提寺、高野山などに営まれ、死去した場所や遺言などによって、いずれかに埋葬されました。

市橋家は、国許の清源寺のほか、江戸の南泉寺や東嶺寺などに墓所が営まれましたが、江戸の墓所は関東大震災の被害を受けており、造立当時の姿や元の位置を保ってはいません。

一方、清源寺には、国許で亡くなった三代藩主の信直、六代藩主の長璉、八代藩主の長発の藩主墓と、九代藩主長富の室（妻）の墓所が現存しています。いずれも、瓦や石敷の基壇の上に、花崗岩と砂岩製の宝篋印塔が造立されたものですが、興味深いことに、それぞれの造りや材質には各所で違いが見られます。たとえば、墓石が造

立された基壇だけでも、信直墓は切石を正方形に敷いたものに対して、長璉墓は磚（敷瓦）を正方形に敷き、長発墓は磚を斜めに敷いています。さらに、長富の室墓は磔敷きとなっており、すべて異なる造りとなっています。その違いについては、さらなる検証が必要ですが、造られた時期や思想の違いによると考えられます。また、かつては墓石を覆う御霊屋があったことが記録や地元の方々の記憶に残っています。そのため、墓石も風化しておらず、良好な状態で残っており、それぞれの墓石も違いもよくわかります。



▲清源寺本堂の裏に残る九代長富の室の墓所